

# アスカマン 21 & ベリマースー利用方法

リーフプロジェクト

## 枯草菌の特長

### 病原糸状菌に対して圧倒的なスピードで増殖して生育環境を安定化します。

糸状菌（病原）の 1/6 の時間で増殖し、9 時間後には 3 万倍以上の菌数になります。この優先的増殖で、圃場内での自由生活菌・有用菌の占有率を強化します。

### 粗大有機物と同時投入で、土壌内増殖が出来ます。

通生嫌気の枯草菌と偏性嫌気菌の組合せで酸素の有無にかかわらず土壌中のどの部分でも働きます。納豆菌と近縁ですが、より強い繊維質分解力と病原拮抗酵素産出力があり、増殖にビオチン（ビタミン B7）を必要としないので、低コストの粗大有機物をエサに長期的な土壌改良化が計れます。

## 緑肥鋤込・作物残渣

### 作業簡便化・短期間で播種・植え付け可能。

3 日～7 日で可能。日数は種類と量で変動。種類により菌体用窒素と共に使用します。

作物 乾物 2 トン（現物 5 トン）+ チッソ 5～10Kg（品種、部位により勘案）

デナグロス 20～30 kg / 10 畝 （発芽後・植付け時、ベリマース、3 ℓ / 300 ℓ 10 畝 散布）

## 洗淨での罹病予防・耐病性酵素力強化

### 葉面洗淨と常在有用菌の活性促進

枯草菌は、サーファクチン（界面活性酵素）と呼ばれる酵素を作り、葉や作物本体の汚れや付着病原菌胞子、うどん粉病の白変部等の洗淨に利用出来ます。又、イチュリンと呼ばれる酵素は拮抗作用も認められ、その他の有機酸やビタミンなど分泌酵素は、植物に常在する有用菌の栄養成分となって増殖を助けます。

○付着病原菌胞子洗淨、800 倍希釈液で、7～10 日毎、散布液が滴下する程度。

○うどん粉病白変部、500 倍希釈液で洗淨、重症部は 300 倍液を散布後 1,000 倍液で洗淨し、以後 3～4 日間隔で 2～3 回散布します。通常使用は 7～10 日間隔です。

○果樹罹病根は患部と周辺を 800 倍液で洗淨し、洗淨後当社販売の広葉樹堆肥リーフコンボ、又は、腐葉土で被覆し、その上から 500 倍液をたっぷりと灌水します。\*その他の堆肥は施用時播種可能な物、牛フン堆肥を使う場合は、必ず EC2 以下で糞臭は無く敷料の完熟した物を使って下さい。

## 生育促進・生理賦活

### 生理活性・耐病性強化

リポペプチド酵素による生理活性効果と、植物の病虫害耐性が強化がされます。

### 連作障害軽減、肥効促進 養液・灌水に混入使用で耐病性強化

養液・灌水混用で、有機窒素のアミノ酸化を助けて肥効と・生長を促進します。

## 太陽熱・嫌気消毒に、通性・偏性嫌気で 5～58℃でも増殖、120℃耐熱

酸素が有っても無くても働きます。堆肥等の粗大繊維質と菌体用窒素と共に使用します。

反当り、堆肥 2 トン + チッソ 10Kg に、5 ℓ を散布しやすい量で希釈して散布後鋤きこみます。

## 簡単無切り返して。ボカシ・自家製有機肥料作り

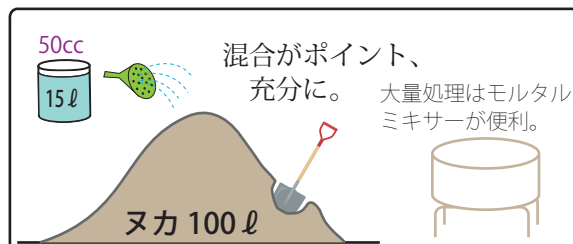
### 米ヌカボカシ作り・簡単・切返し完全不要

原液を 300 倍に希釈して、水分 60% 程度になる様にヌカに良く混ぜる。

目安は、ヌカ 100 ℓ に 300 倍希釈液 14～15 ℓ 程、握ってすぐ壊れる位、水が滲むと 65% 以上。

\*ヌカにフスマを 2 割程混ると固りが出来にくい。

混合後ポリ袋・密閉容器等で空気遮断保存。



### 自家製有機肥料製造

完成後、魚粕骨粉等と混ぜて再発酵します、発酵時間で肥効特性が調節出来ます。

化成肥料を追加して有機混合肥料化も可能です。

保存するには乾燥が必要。

